



公益財団法人

# 長岡市米百俵財団

## 概要

名 称／公益財団法人長岡市米百俵財団  
事 務 所／〒940-0084 新潟県長岡市幸町2-1-1  
TEL.0258-39-2238 FAX.0258-39-2271  
沿 革／昭和62年1月14日 財団法人長岡市人材育成基金設立  
平成7年2月3日 財団法人長岡市米百俵財団に改称  
平成24年4月1日 公益財団法人に移行  
基 本 財 産／7億3,800万円  
理 事 長／牧野 忠昌

### 【次代を担う青少年の育成】

#### 大学等進学者奨学金の貸付け

健康かつ人物・学力優秀でありながら経済的理由で大学等での修学が困難な人に、奨学金の貸付けを行っています。

#### 高校留学奨学金の給付

1年間ホームステイをしながら海外の高校に留学する高校生に奨学金を給付しています。

#### プログラミング体験教室の開催

ロボットプログラミングやプログラミング言語などを気軽に学べるプログラミング体験教室を開催しています。

#### 中学生海外体験の支援

長岡市海外姉妹都市(フォートワース市、ホノルル市)への中学生海外体験派遣を支援しています。

### 【社会人派遣研修の助成】

#### 中小企業従業員派遣研修の助成

長岡市内に事業所を有する中小企業が働く人が派遣研修に参加する場合に助成しています。

#### 農業者派遣研修の助成

長岡市内に住む農業者が派遣研修に参加する場合に助成しています。

### 【米百俵の精神の普及・啓発】

#### 米百俵デー市民の集いの開催

国漢学校新校舎開校の日(明治3年6月15日)にちなみ6月15日を米百俵デーに制定し、毎年6月に「米百俵デー市民の集い」を開催しています。

#### 書籍の頒布

山本有三作・戯曲「米百俵」を収めた「米百俵 小林虎三郎の思想」及び「ナルド・キーン英訳の「One Hundred Sacs of Rice」などの頒布を行っています。

### 【人材育成活動の顕彰】

#### 米百俵賞の贈呈

教育、文化、福祉、スポーツ、産業等の分野において、独創的な活動により、人材育成に大きく貢献している個人または団体に米百俵賞を贈呈しています。

人材育成の財政基盤を確立するため、皆様の御協力をぜひとま  
お願いいたします。

お寄せいただいた寄附金につきましては、特定公益増進法人に  
対する寄附金控除の対象となります。

〈振込先〉北越銀行長岡市役所支店 普通 119243

（長岡市米百俵財団 理事長 牧野 忠昌）

第23回

# 米百俵賞

公益財団法人長岡市米百俵財団は、  
育英百年の大計にたった  
郷土の先覚者・小林虎三郎の  
遺徳をしのび、その思想を表す  
「米百俵」の精神を継承し、  
広く普及・啓発を図るため、  
人材育成に著しい功績をあげた  
個人または団体を表彰します。



公益財団法人

長岡市米百俵財団

## 小林虎三郎・プロフィール



小林虎三郎 (1828-1877)

文政11年(1828)8月、  
長岡藩士 小林又兵衛の三男として生まれる。  
幼い時、天然痘で左眼の光を失う。  
藩校の崇徳館で学び、若くして助教を務めた。  
23歳の時、藩主の命で江戸に遊学。  
佐久間象山の門下に入り、  
長州の吉田寅次郎(松陰)とともに「二虎」と称される。  
象山の横浜開港論を藩主に献言して国元に謹慎。  
幽閉生活のなか、教育の重要性を説く「興学私議」を著わす。  
象山に「天下、国家の政治を行う者は吉田であるが、  
わが子を託して教育してもらう者は小林のみである」  
と言わせるほど、虎三郎は教育者であった。  
長岡が戊辰戦争に敗れた翌明治2年、  
焼け残った昌福寺の本堂を借りて  
国漢学校を開校。大参事に推挙される。  
米百俵が送られてきたのは、その翌年のことである。  
終生を病にさいなまれた虎三郎は自ら「病翁」と称した。  
明治10年8月に死去。享年50歳であった。

「育英こそ百年の大計である」と説いた  
郷土の先覚者・小林虎三郎の「米百俵」の  
思想は、長岡人の心のよりどころであり、大き  
な誇りでもあります。長岡市米百俵財団は、  
こうした「米百俵」の精神を次代へ受け継ぎ、  
発展させるとともに、明日を担う人材の育成  
を図ることを目的として設立されたものです。  
「この百俵は、今でこそただの百俵だが、後  
年には、一万俵になるか百万俵になるか、は  
かり知れないものがある」(山本有三・戯曲  
『米百俵』より)  
小林虎三郎のこの言葉は、まさに本財団の  
夢であり、ロマンであります。

公益財団法人長岡市米百俵財団  
理事長 牧野 忠昌





# 第22回米百俵賞受賞者

にじのはしファンド

(沖縄県那覇市)



児童養護施設を卒園した子どもたちの進学は、経済的な困難から非常に厳しい現実がある。にじのはしファンドは、代表の糸数氏が、その厳しい現実を知り、子どもたちが将来に夢を持ち、それを実現できるように、サポーター1人ひとりの会費をもって支援を行うことを目的として、平成23年1月に発足した。

沖縄県内の児童養護施設、里親家庭、ファミリーホーム出身者で、大学や専門学校への進学を望む子どもに対して、生活を支援する給付型の奨学金制度や、運転免許などの資格取得資金助成を行い、子どもたちの夢の実現や生活の基盤づくりにつなげている。

支援の仕組みは、昭和34年に那覇市首里地区で行われていた「毎月豆腐一丁分」の寄附を募り高校生に学習援助する試みを参考にし、毎月1口千円の寄附を募り、サポーターからの寄附を原資に子どもたちに対して支援を行っている。

知人等への声掛けから始まった毎月1口千円を寄せるサポーターは、沖縄県内だけではなく、県外からの参加もあり500名を超えている。夢を持ってその実現に向けて頑張る子どもたちに、柔軟で迅速なサポートを届けることを大事にしている。

サポートをしていた子どもたちから、学業を終えて社会へ出たときに、話せる人、話せる場がなく、一人で悩みを抱え込んでしまうという声があり、社会へ出た後のサポートも重要と考え、奨学金や資格取得資金助成支援に加え、新たに、児童養護施設等卒園者同士の交流会や、入園者と卒園者との交流会も実施している。実家のように頼れる場所と人、同じ悩みを分かち合える仲間とのつながりを持ち、不安や悩み等を共有する場を提供している。



活動の様子

## これまでの米百俵賞受賞者紹介

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | 中野 信隆(長岡市)   |
| 第2回  | スタニスラヴァ・シュラムコヴァ(チェコ国籍)   |
| 第3回  | 新潟国際ボランティアセンター(新潟市)  |
| 第4回  | 秋尾 晃正(東京都練馬区)  |
| 第5回  | オーガスティン・アブチマン・アウニ(長岡市)   |
| 第6回  | 村上 一枝(東京都武蔵野市)   |
| 第7回  | 高橋 一馬(千葉県市川市)  |
| 第8回  | 山之内義一郎(長岡市)  |
| 第9回  | 南 研子(東京都杉並区)   |
| 第10回 | 後藤 文雄(東京都武蔵野市)   |
| 第11回 | ルダシングワ真美(ルワンダ共和国)  |
| 第12回 | 駿溪トロベカイ(茨城県つくば市)   |
| 第13回 | バイマーヤンジン(大阪府吹田市)   |
| 第14回 | NPO法人日本ネパール女性教育協会(東京都文京区)  |
| 第15回 | 片桐 和子・昭吾(新潟市)  |
| 第16回 | シルバカラ・アカデミー劇団(バングラデシュ)   |
| 第17回 | 小林 茂(長岡市)<br>アフリカのストリートチルドレンの生き様を描いた「チョコラ」や<br>新潟水俣病の被害者家族が遅しく暮らす様子を描いた「阿賀に生きる」等の映画制作や講演活動を通して、教育、福祉<br>などの問題を広く発信している。  |
| 第18回 | 内藤 眞(新潟市)<br>ミャンマーの医療関係者育成のため、ミャンマーと日本の医<br>学生、医師同士の交流の促進を図り、両国大学間での共同<br>研究ができる体制を整えた。また、インフルエンザ研究拠点の<br>設立に尽力し、研究機会の提供と医療の質の向上に貢献し<br>ている。                     |
| 第19回 | 斎藤 惇夫(埼玉県さいたま市)<br>自身の体験から、子どもたちが心豊かな人間として成長す<br>るためには、幼少期の本の読み聞かせが大切であると考え、<br>大学生、子育て世代、学校関係者等への講演活動を通じて、<br>「子どもたちに本を読んでやることが大切さ」、「優れた物語を<br>選ぶことの大切さ」を伝えている。 |
| 第20回 | NPO法人インクルいわて(岩手県盛岡市)<br>ひとり親に対する就職のためのスキル習得、家庭との両立<br>支援や子どもへのケアなど、ひとり親家庭の社会的な自立を支<br>援している。   |
| 第21回 | NPO法人障がい者相互支援センターMCP(福岡県太宰府市)<br>聴覚障害者が授業に参加できるように、大学の講義の内容<br>をノートやパソコンで文字にして伝えるボランティアの育成や、<br>障害者向けの学習支援教室を開催するなど、聴覚障害者の<br>学習支援を行っている。                        |

※受賞者の( )内は、受賞当時の居住地等を表示

## 「米百俵」の故事

戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡藩に、  
支藩の三根山藩（現在の新潟県新潟市西蒲区峰岡）から  
見舞いとして百俵の米が送られてきた。  
窮乏を極めていた藩士は米が分配されるのを  
一日千秋の思いで待った。  
しかし、藩の大参事・小林虎三郎はその米を家中に配分せず、  
文武両道に必要な書籍、器具の購入にあてるとして、  
米を売却した代金を国漢学校設立の資金に注ぎ込んだ。  
国漢学校には、洋学局、医学局も設置され、  
藩士の子弟だけでなく町民や農民の子供の入学も許された。  
ここに長岡の近代教育の土台が築かれ、後年、  
ここから新生日本を背負う多くの人物が輩出された。  
この「米百俵」の故事は、戦時中の昭和18年（1943）  
文豪・山本有三の同名の戯曲によって広く知られるようになった。  
平成13年5月、小泉首相の所信表明演説に取り上げられ、  
同年9月に東京歌舞伎座で二度目の上演が行われた。  
「国が興るのもまちが栄えるのも、ことごとく人にある。  
食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ」  
という小林虎三郎の思想は、今も多くの人に深い感動を与えている。



953円  
(税別)

書籍「米百俵 小林虎三郎の思想」



953円  
(税別)

書籍「One Hundred Sacks of Rice」  
(英語版米百俵)



1,100円  
(税別)

アニメDVD「長岡の侍～米百俵～」



286円  
(税別)

書籍「米百俵 小林虎三郎物語」



1,429円  
(税別)

書籍「米百俵 - その先の未来へ -」

## 第23回米百俵賞 募集要項

### ■ 対 象

教育、文化、福祉、スポーツ、産業等の分野において、独創的な活動により人材の育成に大きく貢献し、「米百俵」の精神を今に体現する個人又は団体。表彰は、原則として1名又は1団体とします。(国籍、居住地は問いません。)

### ■ 賞

表彰楯、副賞(賞金100万円)

### ■ 応募期限

平成31年1月18日まで

### ■ 推薦方法

所定の推薦書により、長岡市米百俵財団事務局に推薦してください。自薦、他薦は問いません。

### ■ 選考方法

推薦のあった個人・団体の中から長岡市米百俵財団の米百俵賞選考委員会において受賞者を選考します。

### ■ 選考委員

委員長 関川 夏央(作家)

委 員 荒木 正(元長岡市立阪之上小学校長)

佐竹 直子(NPO法人多世代交流館になニーナ代表)

水流潤太郎(公立大学法人長岡造形大学理事長)

矢澤 康子(長岡商工会議所女性会委員)

### ■ 選考結果

平成31年3月下旬に受賞者を決定します。

### ■ 表 彰

米百俵デー市民の集い(6月開催予定)で表彰します。

### ■ 推 薦 先

公益財団法人長岡市米百俵財団事務局  
〒940-0084 新潟県長岡市幸町2-1-1  
長岡市教育委員会教育総務課内  
TEL.0258-39-2238 FAX.0258-39-2271  
E-mail kyoso@kome100.ne.jp  
U R L <https://kome100.or.jp>



▲ホームページ